

P I ステップ 3 に対する主な評価・助言

平成 19 年 12 月 18 日に開催された第 6 回那覇空港調査 P I 評価委員会において、4 つの評価視点に基づいた実施主体の自己評価については概ね妥当との評価とともに、以下のような評価・助言を頂きました。

【周知、情報提供、意見収集方法について】

- 1 . 周知については、いろいろ頑張ったという印象である。非常に多様な媒体、場所を利用して、費用も考えながら周知の方法を徹底した結果、思いもかけなかった多様な意見の収集につながったと思う。
ステップ 1 ~ 2 に比べステップ 3 は、意見の収集方法がかなり確立していると思う。県民の意見が多様に出ているという印象で、信頼性の高い結果が得られたものと評価する。アンケート結果をかき集めるということではなく、いろんな場所でやることによって、自然に集まったものとする。かなり素直に良い形で行われたものと評価する。
- 2 . 新聞での報道状況について、新聞だけでなくテレビやラジオなどを含めたメディア全体とした報告があればよかったと思う。
- 3 . 周知活動は、ステップ 2 と同様な費用で、効果は 1 0 倍にもなっており、問題はないと思う。評価の部分には、具体的な数値（回数等）を入れた方がよりよい。
- 4 . 情報提供等の手法についてはある程度確立されていると思うので、次の段階（構想段階）があるとした場合、同じような手法（媒体、機会）を踏襲した方がよいと思う。

【アンケート、意見に対する見解について】

- 1 . サンプル数が多くなれば、アンケートの信頼性は増すと思う。しかし、遊びに来た人がちょっと書いて出したというのであれば、信頼性は落ちると思うが、商業施設等でのアンケートの回収数はどうなっているのか。
- 2 . 今回、初めて P I を知った方は 7 4 % とあるが、これは、ステップ 3 で始めて知ったということか。
ステップ 1 及び 2 でアンケートに回答した方の意見は、重みがあることから、その様な方がどういう意見を書いたかということについては、整理する必要がある。

- 3．今回のアンケートでは、表面のチェックだけをした方が全体の3割、約7割の方は意見を書いており、信頼性があるので、そのことを実施報告書に記載しておいた方がよい。
- 4．寄せられた意見に対する対応については、特に将来対応方策については、同じ回答をしている部分があり、もう少し丁寧に回答すべき。
- 5．寄せられた意見に対する見解で、将来対応方策を詳細に検討していく際にはという部分に「・・・他事業の保全対策の事例等を踏まえ・・・」との表現があるが、環境は個々の地域で対応が異なっていると思うので、「・・・事例や特殊条件等を踏まえ・・・」という表現にすべき。
- 6．今回のアンケートで、少なくとも5割の方が自然環境への影響を挙げているので、事業計画に当たっては、PIを通して環境等についても明らかにして、親切的な情報公開が重要と考える。それを通して県民等が考えている環境影響ということを吸い上げて対応していただけるものとする。
- 7．今後、具体的な検討を行っていく際には環境問題が出てくるので、環境に如何に配慮していくのか示さなければ理解が得られないと思う。辺野古と異なるとは思いますが環境問題という点では同じである。慎重に配慮をしていくことが必要と考える。

【まとめ】

- ・ 情報を十分与え、意見を収集されており、全般的に適切と評価する。
- ・ 評価の部分には、数値を追加すべき。
- ・ 信頼性が高いという評価を追記した方がよい。
- ・ 寄せられた意見への対応については、もう少し丁寧に回答すべき
- ・ これまで実施してきたステップ1～3の意見については、できるだけ今後の検討に適切に活かして頂きたい。